

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Bユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57 ポートピア松江ビル4階		
自己評価作成日	令和5年12月27日	評価結果市町村受理日	令和6年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](https://2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和6年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

繁華街にある施設なので花火大会や藝行列、天神祭など松江の歴史ある行事に参加し楽しんでいただいている。  
建物内に散歩コースやラウンジがあり、運動不足にならないように活用していただいている。  
常勤の看護師がいて、日々の体調管理を行い、急変時等すぐに相談し速やかに医療へつなぐことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム 敬愛苑 Aユニットに記載しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につく場所に掲示して朝礼にて唱和をしている。 新入社員にも理念を伝え、年度初めには振り返りをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会議等で苑の様子を伝えている。BCPIについての話し合いや協力体制についても確認ができた。祭りやこそけん野菜販売など地域の行事の予定を把握し外出の機会を作っている。その際、家族の参加を募り協力のもと外出して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度から運営推進会議もはじまり、地域の方が会議室を使用されたりしている。運営推進会議を通して、地域の方や家族から直接意見を聞き参考にしてている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の一時避難所になっていることから、運営推進委員の方にも避難訓練に参加して頂いている。地域の方から、衣類や新聞を頂いたりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	松江市の担当者の方や生保の方などと事前に相談を行った。また、松江市から直接相談を頂くこともあった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止、虐待防止委員会にて研修を行い、皆で話し合う機会を作っている。 センサーの見直しも定期的に行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のケアの見直しは連絡ノートへ記入している。毎月一度、各ユニットで集まり、会議でケアの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑にて、対応が必要な方がおられる場合には支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとって説明を行っている。リスクや看取りについても説明し、了承をして頂ける様お話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、委員や松江市からの意見を頂いて運営に反映している。 家族には面会や電話にて様子をお伝えしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、定例会議、各委員会で職員同士意見を出し合い、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や休み希望などなるべく要望に応じている。重度化により、職員負担の軽減の為、記録や業務内容の見直しを行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加後。施設内研修も行っている。職員の力量や希望も聞き、研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度よりグループホーム部会がはじまり、また、介護支援専門員の集まりを通して、他事業所の方との交流を深め、施設での取り組みと相談できる機会になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談において、本人の思いや要望、大切にしていることを確認し、不安を取り除き安心して生活が出来るための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の際、ご家族が困っていること・不安な事・要望を十分にお聞きし、安心につながる様な支援の方法や提案など話しながら信頼関係を築く様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に本人、ご家族の意向をしっかりと聞き出した上で、施設として出来ること出来ないことを説明し、場合によっては他事業所への提案をさせて頂くこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者様から様々な事を学ぶという姿勢を忘れず、共に暮らしながら互いに支え合う関係が築ける様心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の定期受診や気分転換の外出などご家族として協力して頂ける支援はお願いし、共に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はコロナ5類移行後、窓越しの面会から、感染対策のルールを決めたうえで、各居室で行うこととし、大切な人と団らんの時を過ごして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新たな利用者が入居される時、お話を合いそうな方の近くの席を用意し利用者同士の関わりが持てるよう心掛けている。洗濯物を干す、たたむ作業は利用者同士助け合いながら、して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も写真付きお便りを送ったりし必要に応じて相談を行えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、様子から本人の希望や思いをくみ取りサービスを提供するように支援を行っている。居担を中心に利用者の好きなものを聞きとり、外食や食事のメニューに取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接にて本人やご家族にお話を聞き生活歴や暮らし方等詳しく伺い情報収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日頃の様子、表情、発言等記録に残すようにしている。いつもと違う状況があったときには皆で周知し、状態に合わせた対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や日々のミーティングで課題について話し合い、担当者会議にご家族にも参加して頂き、様々な関係者の意見を聞いたうえで、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと変わった様子があれば特記事項に記入し、日々の様子はケース記録や連絡ノートに記入し、スタッフ間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望、本人の体調を伺いながら外出支援や居室での面会を行っている。通院の送迎はご家族と相談しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	水郷祭、天神祭等の近隣のイベントに足を運んで参加したり、利用者の方々の食べたいものの情報を傾聴し、外出先で本人様の好きなメニューを召し上がっていただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を尊重し、今までのかかりつけ医や希望されている病院の受診、往診を受けて頂いている。ご家族様の希望により看護職員が付き添いをすることもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子の中で気になったことや変わったことを相談し、処置や今後の対応の指示を受け連携を図り共有個人記録に残し、利用者様の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員又は看護職員が付添い情報提供している。ご家族様や病院から状況を聞いたり、退院されるにあたって事前に病院に訪問し、医療機関からアドバイスを得ることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りについて、医師、看護師、管理者、ご家族様で説明や話し合いを行っている。ご本人様やご家族様の希望を伺い、状況報告しながら医師や看護職員と連携を図りチームケアできるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED、心肺蘇生の研修を行っている。急変時の対応や緊急時についての表を作成しており、いつでも確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路、消火器の使い方の確認、避難訓練を年2回行っており、定期的な備品点検と管理を行っている。今年は研修にて原子力災害初期対応についても行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念をもって接し、プライバシーに関わることは本人の前で丁寧な言葉づかいで話し、他の人にわからないよう小声で話すなど配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に寄り添い傾聴することで思いや希望を表して頂く。自己決定できるよう選んでもらったり、できるだけ同意してから対応するようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、レクリエーション等声がけしているが、強制はしないようにしている。希望されれば食事を居室で召し上がっていただき、眠気が強かったら午睡して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、顔を拭いて頂きヘアブラシで髪をとくようにしている。敬老会等の行事があるときは、ネイルや化粧等をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べたいものを聞き、書いて参考にしている。誕生日には希望されれば外出して食事を食べて頂いている。食事前の台拭きや手の消毒、食後のお膳拭きを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、摂取量が少なければ本人様の飲食しやすいものを出すようにしている。誤嚥の可能性のある場合には刻んだり、とろみをつけたりして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ本人様にして頂いている。介助が必要な場合は手伝っている。夕食後の口腔ケアでは糸ようじを使用している。ポリデント洗浄も週一で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄を記録し排便パターンを把握しトイレ誘導を行っている。ご自分で出来る方は車いすをトイレに設置し、一人での移動が出来るような配慮を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で毎日の排便状況を記録に残し、一人一人の排便について把握し、看護師と相談して座薬、下剤等使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	脱衣場から浴室までバーを持ち歩いて頂いたり洗身出来る方にはご自分で洗っていただくよう、残存機能を活かした髪の毛の洗い方等ご本人の要望を聞きながらゆっくり過ごして頂くように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	帰宅願望が見られ不穏な利用者や、眠れない利用者にはリビングにてTVを見たり、お茶を飲みながら利用者同士で団らんできるように配慮している。パジャマ更衣し夜だという事を認識してもらるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成している。服薬に誤薬が無いよう、名前のダブルチェック、本人様への計3回の確認をする。服薬時から飲み込みまで見落としが無いよう、声かけと見届けを行い服薬が難しい方には時間の変更やオリゴ糖に混ぜて服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬり絵や編み物、散歩、カラオケ等、利用者様が出来ること、興味のあることをして頂いている。洗濯物干しやたたみ作業、お膳拭き等も手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた外出(花見や整行列等)計画を立て出かけて頂いており、ご家族様との外出時での一階玄関への送り迎え等協力もしている。天候の良い時期には花壇の水やりや野菜収穫も利用者様と一緒にしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っておられる利用者様もおられる。少額の現金を持つことでお金が無いという不安が無いようにしている。必要な時は事務所で預かっているのでいつでも使うことが出来ると話をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されている利用者様も何名かいらっしゃる。充電の確認や使い方、家族様との取次などのお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには対面の台所もあり、調理をしている様子を感じたり出来るようになっている。季節を感じられるような壁紙を貼ったり、利用者様に手伝って頂いた作品などを飾ったりしている。食材(副食)の仕分けを時間のある時に手伝って頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士良好な関係が保たれるように気の合う方同士で席を隣にしたり、他のユニットとの交流を保ちやすくするため、ソファをユニットの間に置き、お話ができるような環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと住んでおられた時に大事にされていたものやソファなど好きな家具を持ち込まれたり、思い出の写真や家族の写真を飾ったり、自分で描いた絵や作品を飾り、自分の居場所となるような部屋になる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元にひっかかるような物を置かないようにする。それぞれの方の動線を工夫する。転倒防止のマットを居室に敷いたり、足台や歩行器や車椅子等利用者に合わせて提供している。		